

ディスコグラフィアー掲載

ディスコグラフィアー 【2019No.143】 (HP 掲載)

分類 : CD

作曲家 : J.S.バッハ

曲名 : いざ来ませ、異邦人の救い主 BWV 599 他

演奏 : 塚谷水無子

発売 : Pooh's Hoop

No. : PCD-1810

概要 :



収録曲 :

01. いざ来ませ、異邦人の救い主 BWV 599
02. 神よ、汝の慈しみによりて BWV 600
03. 主キリスト、神の独り子 BWV 601
04. 全能の神に讃美あれ BWV 602
05. 嬰兒 (みどりご) ベツレヘムに生まれたまえり BWV 603
06. イエス・キリストよ、讃美を受けたまえ BWV 604
07. かくも喜びに満てるこの日 BWV 605
08. 高き御空よりわれは来り BWV 606
09. 御空より御使いの軍勢来れり BWV 607
10. 甘き喜びのうちに BWV 608
11. イエス・キリストの徒よ、こぞりて神を讃えまつれ BWV 609
12. イエスよ、わが喜び BWV 610
13. キリストをわれらさやけく頌め讃うべし BWV 611

14. われらキリストの徒 BWV 612 (1:27)
15. われとともに神の慈しみを讃えよ BWV 613
16. 古き年は過ぎ去りぬ BWV 614 (2:11)
17. 汝にこそ喜びあり BWV 615 (3:02)
18. 平安と喜びもてわれは逝く BWV 616
19. 主なる神よ、いざ天の扉を開きたまえ BWV 617
20. おお、罪なき神の小羊よ BWV 618
21. キリストよ、汝神の小羊 BWV 619
22. われらに幸いを与えたもうキリストは BWV 620
23. イエス十字架につけられたまいし時 BWV 621
24. おお人よ、汝の大いなる罪を悲しめ BWV 622
25. 主イエス・キリストよ、われら汝に感謝す BWV 623
26. 神よ、われを助けて遂げさせたまえ BWV 624
27. キリストは死の縄目につながれたり BWV 625
28. われらの救い主なるイエス・キリスト BWV 626
29. キリストは甦りたまえり BWV 627
30. 聖なるキリストはよみがえりたまえり BWV 628
31. 栄光の日はあらわれぬ BWV 629
32. 今日、神の子は勝利をおさめ BWV 630
33. 来ませ、創り主にして聖霊なる神よ BWV 631
34. 主イエス・キリストよ、われらを顧みたまえ BWV 632
35. いと尊きイエスよ、われらはここに集いて BWV 633
36. いと尊きイエスよ、われらはここに集いて BWV 634
37. これぞ聖なる十戒 BWV 635
38. 天にましますわれらの父よ BWV 636
39. アダムの墮落によりすべては朽ちぬ BWV 637
40. われらに救いの来たれるは BWV 638
41. われ汝に呼ばわる、主イエス・キリストよ BWV 639
42. 主よ、われ汝に望みをいだけり BWV 640
43. われら悩みの極みにありて BWV 641
44. 尊き御神の統べしらすまにまつろい BWV 642
45. 人はみな死すべきさだめ BWV 643
46. ああ、いかにはかなく、いかにむなしき BWV 644
47. いざ来ませ、異邦人の救い主 BWV 599

演奏：塚谷水無子（オルガン）

楽器：ミュラー・オルガン（1738年製作）

録音：2018年10月3～5日

場所：聖バフオ教会（オランダ・ハーレム）

プロデューサー：四方善郎（Pooh's Hoop）

エンジニア：ダニエル・ファン・ホルセン（DMP Records）

オルゲルビュッヒラインと題した塚谷水無子のバッハのコラール曲集です。

公式サイトには次のような解説があります。

「バッハの「攻め」のレジストレーションとはどんなものだったのか？

オランダ、聖バフオ教会のミュラー・オルガンを駆使して体現。

小品どころではない壮大華麗なオルガンコラールの世界が広がる。

20年以上も前、藝大図書館で初めて聴いた《オルゲルビュッヒライン》の録音はスローで重々しく、ちょっとバッハらしくない音楽のようで腑に落ちなかった。ブラームス的な渋みが持ち味？いや、そうではない。何かがちがう。未発掘の古い音楽を紐解くようにこの曲集に対峙すべきだと思っていた。（塚谷水無子/ライナーより）

「オルゲルビュッヒライン」、この曲集ほど高名な音楽学者たちが挙って激賞する割に、リスナーからはそれに見合う評価を得てきたとは正直思いにくい。そして、塚谷が「オルゲルビュッヒライン」に挑む以上、周到な考証から大胆に帰納される「目から鱗」の解法を期待できないはずがない。その期待は叶った。そして、なぜ今までこの曲集がリスナーに高く評価されてこなかったのか、彼女の演奏を通じてその謎がほぼ解けたのである。今回、塚谷盤の何に驚いたかと言えば、延々と述べてきたこの曲集に対する我が不定愁訴を作り出してきた疑問——特にレジストレーションとテンポ——を、彼女がクリアに解決して見せてくれたことだ。（佐々木裕二/ライナーより）」
オルゲルビュッヒラインという言葉のとおり、オルガン小曲集です。

[上新電機で開催されたアキュフェーズ A-48 試聴会](#)のデモで塚谷水無子演奏のオルガン曲が使用されていましてので見せてもらおうとミュラー・オルガンが使用されており、ミュラー・オルガン使用のCDを入手して聴いてみることにしたものです。

本CDでは、聖バフオ教会（オランダ・ハーレム）のミュラー・オルガン（1738年製作）が使用されており、[ディスコグラフィー【2019No.129】](#)で報告した聖ローレンス教会（オランダ・アルクマール）のフランツ・シュニットガー・オルガン（1725年製作）との音色の比較が興味あるところです。

オルゲルビュッヒラインという題のとおり、1分から5分程度の短い曲ばかりの集まりで、あっというまに次の曲に移ってしまいます。全般的には地味で、1曲1曲の味わいをじっくり聴きとることが難しいのですが、地味ながらもバラエティに富んだ曲を次々と弾き分けていっています。

シュニットガー・オルガンのCDに音と比べますと、こちらの方が、クリアーで豪壮な印象ですが、ミュラー・オルガンの本CDの方は、より地味で時代ものという印象です。

以上